



健康栄養学科

神山 伸 准教授

[専門分野] 栄養科学 / 食品科学

[担当科目] 基礎栄養学Ⅰ(栄養素)・Ⅱ(代謝) / 基礎栄養学実験 / 食と健康 / 食物と栄養の科学 / 生命のしくみ / 卒業研究

Kamiyama **S**hin

私のお気に入り

ITEM

**Piled Higher and Deeper
(PhD comics)**



Jorge Cham の comic strip (4コママンガ) である PhD comics です。文系・理系を問わず、研究者なら思わず笑ってしまうネタに満ちています。ウェブサイト (<http://phdcomics.com/comics.php>) から全て無料で読むことができますが、単行本と毎年のカレンダーも購入しています。

なお、PhDは「博士号」のことで、「Doctor of Philosophy」の略なのですが、表題はこれを「Piled Higher and Deeper」(無駄な知識を蓄積させた)の略であるとする古典的なジョークに基づいています。

「栄養」とは

基礎栄養学を中心に、栄養素の働きと健康を維持するしくみの基本について授業を行っています。「栄養」とは生きていくための体の働きそのものですので、ゼミでは栄養素だけでなく、がんの進展にかかわる因子や、体における糖鎖の役割、食品に含まれる機能性成分の影響などを、遺伝子、細胞、個体のそれぞれのレベルで研究しています。また、食べ物のもう一つの機能である「おいしさ」に関しても、匂いと味との関わりを中心に新しい発見をしようと試みています。

研究に向いていないと言われた学生時代

私が高校生だった頃、「バイオテクノロジー」がブームとなり、農学部への進学を志望しました。大学では栄養学講座で卒業研究を行うこととなり、脂質過酸化と抗酸化ビタミンについての研究を博士課程まで続けました。生活の大部分を研究室で過ごす毎日が続けましたが、優秀な学生からはほど遠く、「研究に向いていない」とよく言われてきました。それでも「そんなことがあるものか」という自負心のもと、諦めずに現在まで研究を続けています。みなさんも誰かに「向いていない」と言われても気にせず、自分の決めた道を進んでください。

未知の課題に取り組む楽しさ

実は、純粋に研究を楽しめるのは学生(特に大学院生)時代であり、研究者になってからは成果を出すプレッシャーに追われています。それでも「まだ誰もやっていない」ことを探究する知的好奇心と、予想と異なる実験結果から新しい課題が生まれる楽しさは、真摯に研究に取り組んだものにしかわからない醍醐味です。ゼミの卒業研究でも、決められた答えを出すのではなく、「未知の課題」に取り組む経験を楽しんでもらえればと考えています。

自分を信じて、自分の決めた道を